

書名：**5年3組リョウタ組**

著者：**石田衣良**

出版社：角川書店

出版年月：2010年6月

総ページ数：485ページ

ISBN：9784043854059



推薦者

速水多佳子

鳴門教育大学大学院准教授  
生活・健康系コース（家庭）

希望の丘小学校 5年3組担任 良太先生。先生となって4年目の25歳。初めての高学年の担任。学校では、毎日いろいろなことが起こります。DV（ドメスティックバイオレンス）、パワハラ、少年犯罪、いじめ。

父親の暴力によって顔にあざをつくって登校するが、自分で転んだと主張する男の子。指導方針をめぐって学年団の先生とのトラブルがあり、先輩教員からのパワハラに苦しめられて学校に来ることができなくなってしまった先生。父親にゲーム機を壊されて、怒りから家に放火してしまった中学生の兄がいる男の子。勉強が苦手で、その子の為にクラスの平均点が下がり、成績競争でクラスが学年トップになれないからと、みんなから迷惑がられる女の子。

教室の内外で事件は起こりますが、そんな中でも毎日の授業は進んでいきます。いろいろな出来事にぶつかり、良太先生は悩んで考えて、周りの先生はもちろんのこと、子どもたちにも助けられて乗り越えていきます。良太先生は言っています。

「子どもたちを教えることで、自分もなにかを学んでいる。」(P.72)

毎日毎日の子どもたちとのかかわりの中で、大変なことも多々ある反面、嬉しいこともそれ以上に経験でき、新鮮な感動があります。

この本は、先生にエールを送っています。

「子どもたちも、学校も、きっとだいじょうぶ」(あとがき P.477)

私もそう思います。これから教壇に立とうとする皆さんにぜひ読んでほしい一冊です。また教員になってからも、困難な状況にぶつかった時にはこの本を手にとって、先生になろうと努力したこと、初めて担任となり子どもたちの前に立って、緊張しつつも誇らしく挨拶をしたことを思い出してください。

学校は楽しいところです。子どもにとっても。先生にとっても。

